

銀山集落「集落営農ビジョン」規模拡大型

作成日：令和 2 年 1 2 月 1 1 日

修正日： 年 月 日

市町村名	岩美町	組織名	銀山振興会
1 地区の範囲 岩美町 銀山地区			
2 地区の概要			
水田面積	6.82 h a	主な水田栽培作目	水稲 農家数 9 戸
認定農業者数	0 経営体	人・農地プランの中心となる経営体数 3 経営体	
3 組織の概要			
設立時期（規約等の制定日）		平成 2 2 年 3 月 7 日 構成農家数 8 戸	
組織形態（該当形態に○を記入） ・ 共同利用型 ・ ○作業受託型 ・ 協業経営型			
4 集積（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標			
【項目】		【現状】	【目標】 R5 年度
農地の集積	集積面積 A	6.42 h a	6.75 h a
	対象水田面積 B	6.82 h a	6.82 h a
	集積率 A/B	94.1 %	98.9 %
	地区外集積面積 C	1.24 h a	1.24 h a
	経営面積 A + C	7.66 h a	7.99 h a
世代交代への取組		70代1名と60代1名で3.76haの面積を耕作している。	中間管理機構を通じて、70代の耕作者の耕作地を50代の耕作者に移行していく。
新規就農者の活動参画		若い世代へ集落の草刈り作業の声掛けを行い、関わりを作るように心がけている。	若手への共同作業の声掛けから、農業に興味を持ってもらう。また、現在勤務をしている者が退職し、通年作業が可能な専業者となり、規模拡大へと繋げる。

5 添付資料

集積状況一覧（別表1、2）、機械の利用計画（別紙）、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等）

注1）目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。

2）経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧（別表1、2）により作成すること。

I 集落営農に対する基本方針

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

当集落は、戸数18戸の山村集落である。その内9戸が、水田面積6.8haで水稻栽培している。年齢構成は50代2名、60代が6名、70代が1名である。経営規模は、30a未満が2戸、30～50aが2戸、50a～100aが3戸、100a以上が2戸である。1筆の面積は小さく全体50筆の中で10a未満が18筆、10a～20aが25筆、20a～30aが6筆、30a以上が1筆である。用水系統は2系統あり、3団地に分かれているが4集落の耕作者で構成している山ノ神営農組合で、中山間直接支払制度、多面的機能支払制度を活用し管理している。平成22年に集落営農組織銀山振興会を設立しコンバイン(3条)を導入し作業受託を行い現在集積率93.1%である。地区の担い手として、中間管理事業を活用している人が3名で、70代、60代、50代の3人で65.0%を耕作している。今後、70代の耕作地を50代へ移行し世代交代をして行く。また、令和5年年度までに振興会に全員加入を果たし田植作業の集積を図り集積率約99%を目標とする。

2 水田の作付計画（水稻以外の作物を含む）、活用方針・具体策

現在兼業農家が多く、田植作業が5月の連休に集中しているため“ひとめぼれ”が多い。一方で担い手となる農家は、作業時期を分散し3品種を作付けしている。現在の品種別作付けは、“ひとめぼれ”53%、“きぬむすめ”30%、“星空舞”17%であるが、今後担い手3人で倒伏しにくく作りやすい鳥取県の星空舞を増やしていきたい。販売先は、縁故での販売が少々で、残りはJAに出荷している。水稻以外の販売作物の生産は機械、労働力、資金力等から困難である。町の再生協の方針を見ながら検討していきたい。

3 農業用機械施設の効率利用

平成 22 年に銀山振興会で 3 条刈コンバインを導入しオペレーター 2 人で作業受託を行っている。兼業農家の圃場はほぼ同一団地に有り、日程調整をして行っている。乾燥は、全てライスセンターを利用している。現在使用している田植機は、H18 年に購入した個人の田植え機を H28 年に振興会で譲り受け、会員から作業受託をして、刈り取りと同様集積に取り組んでいる。本計画で新しい機能（肥料の同時散布）を備えた田植え機を導入し、現在動力散布機や人力で行っている元肥散布の作業効率を向上させ、併せて肥料費の削減と労力削減を図り、集積率を向上したい。溝切機は、3 人で共有して個々で作業している。防除は、ヘリ防除を依頼する人や、又は 3 人の共同作業で動力散布機のホース防除行っている。

4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

人口構成は 20 代、50 代後半、60 代、70 代、80 代である。集落の共同作業など行事については 20 代が参加するようになり期待している。後継者育成は、今後の地域課題として考えていきたい。

5 経営多角化の方針・具体策

経営規模が小さく、兼業農家で労働者不足等取り組みが困難である。今後、周辺地域と一緒に営農組織を強化し、これらの問題に取り組んでいきたい。

II 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額 (円)	導入予定年月	本事業による導入機械に○
田植え機	4 条	1	1,545,000	R3.2	○